

# 視察報告書

発行No.	S-150205
作成日	H26.2.10
作成者	佐原充恭

視察地	広島県福山市 福山市役所	日時・場所	H27.2.5(木) 13:00~14:30
視察テーマ	100万本のばらのまちづくりについて		
視察目的	ばらの花でまちを彩るまちづくりを展開する同市の取り組みを学ぶ。		
視察メンバー (敬称略)	会派『市民クラブ』メンバー(沖野温志、伊藤幸弘、山内智彦、黒川智明、中嶋祥元、鈴木浩二、佐原充恭)		

## 1)事業の概要

報告書内の図表出展: 福山市HP

### 1.事業の目的

「ばら」を通じたまちづくりを市民・団体・事業者・行政との協働によって行い、「ばらの咲き誇るまち」を実現し、2016年(H28)に迎える市制施行100周年時にばらの植栽本数100万本を目指す。

### 2.事業の経緯

空襲による市街地の焼失、戦後の復興の中で、「花こそ人の心が和らぐ。花を育てよう」との機運が高まり、住民がばらの苗を植え始めた。

- ・S31:現在のばら公園付近の住民がばらの苗1,000本を植え付け。
- ・S32:ばら公園整備着工 → 現在約280種/5,500本のばらが咲き誇る。
- ・S43:「全国美しいまちづくり賞最優秀賞」受賞。「第1回バラ祭り」開催。
- ・S60:ばらを市の花に制定。
- ・H5:ばらのシンボルマーク公募、制定。
- ・H22:イメージキャラクター公募、「ローラ」を選定。



## 2)「ばらのまち 福山」の取り組み

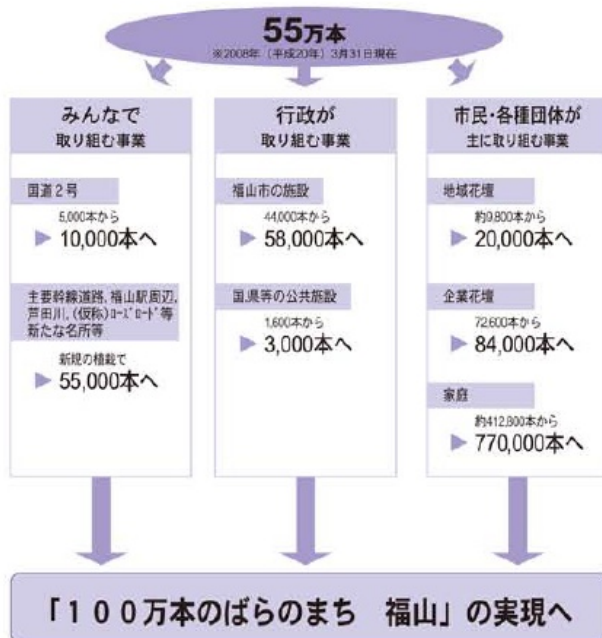
### 1.「ローズマインド」の醸成

戦後の復興と平和を願い、ばらを植樹した60年前、「ばらを愛情を持って育てる事が思いやり優しさ・助け合いの心を育み、優しいまちづくりにつながる」すなわち「ローズマインド」という言葉が生まれた。この心を受け継ぎ、まちの魅力に繋げる。

### 2.2010年3月「ばらのアクションプラン」の策定

市制100周年・100万本のばらのまち実現を目指し策定。「100万本のばら市民会議」を発足し、関係者が協働しながら進めていく。

ばらのアクションプランイメージ図



## 3)具体的取り組み事例

### 1.ばらの植栽事業

駅前広場、駅周辺、国道など主要幹線道路、公共施設、教育施設等への植栽を進める。

### 2.ばらの普及・啓発事業

#### ・ばら苗配布事業

対象:熱意ある市民(2014年度は13,068本配布)

#### ・新生児誕生・入学記念ばら苗配布事業

対象:新生児・小学校入学児童

#### ・新築記念ばら苗配布事業

対象:市内に一戸建てを新築・購入した人

#### ・ばら祭

H26年度は5/17、18に開催。80万人以上が来場。

## 4)成果と今後の課題

### 1.成果

・ばらのまちづくりの輪は着実に広がり、現在の植栽本数は90万本を超えている。

### 2.今後の課題

- ・100周年100万本に向け、さらに協働を進める。
- ・「ふるさと福山への愛着と誇り」を醸成するとともに、市外への発信を進め、「行ってみたい・住んでみたい」と感じられる都市ブランドの確立を目指していく。

**所感:** 戦後の混乱の中で自然に始まった取り組みを大切に育て上げた好例である。事業内容も市民がイメージしやすく、無理やり感もないので、受け入れられやすいと感じた。万人にわかりやすい「ばら」という素材の良さもあると思う。四季咲きの品種もあるとの事なので、通年で活用できれば事業の可能性は更に広がる。昨年視察した春日部市同様、まず市内を固め、順次市外に発信しながらシティセールスにつなげていく。アクションプラン策定や専門部署の設置も重要。刈谷も戦略的にシティセールスを進めて欲しい。福山は都市ブランド戦略も別途策定しているので、機会があればまた内容を聞いてみたい。

# 視察報告書

発行No. S-150205

作成日 H26.2.10

作成者 佐原充恭

視察地 広島県三原市 三原市役所

日時・場所 H27.2.6(金) 10:00～12:00

## 視察テーマ 地域包括ケアシステムの構築について

視察目的 同市の久井町江木地区をモデルとした地域包括ケアシステム構築の取り組みを学ぶ。

視察メンバー(敬称略) 会派『市民クラブ』メンバー(沖野温志、伊藤幸弘、山内智彦、黒川智明、中嶋祥元、鈴木浩二、佐原充恭)

### 1)事業の経緯

地域包括ケアシステムとは、団塊の世代(約800万人)が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供する仕組みである。三原市は、広島県の地域包括ケア体制推進の一環として「地域の支え合い活動の立ち上げ支援事業」を事業申請し、実施した。



### 2)江木地区の概要

広島県三原市久井町江木地区・・・人口848名 65歳以上43.16%、75歳以上29.6%。

### 3)事業の概要

- ・事業費2,035,320円(計画時) H23.4～事業開始
- ・H23: 会議名『日常生活サポートネット「ふれあいの町江木」』を6回/年開催。地域住民のべ136名が参加。
- ・H24: 会議名『日常生活サポートネット「ふれあいの町江木」』を2回/年開催。  
1回目は買い物についてアンケート実施、20～90歳の347名より回答あり。  
2回目は日常生活についての困り事アンケート実施。H25.3には一人暮らしの高齢者15名の見守り定例会も実施。
- ・H25: 会議名『日常生活サポートネット「ふれあいの町江木」』を3回/年開催。  
地域内に6名のコーディネーターを決め、研修を実施(地域の困り事をどこの窓口につなぐかなど研修する)。
- ・H26: 会議名『日常生活サポートネット「ふれあいの町江木」』に見守り活動定例会を統合し、新たにスタート。

#### 継続実施事項

- ・誰もが立ち寄れる会場づくり・・・お茶の間サロン、ふれあい貯筋教室。男女は勿論、障害者、要介護者も参加可。
- ・雑談できる場づくり・・・困り事を傾聴し、担当窓口につなげる。
- ・地域の顔なじみづくり・・・お互いさま活動を広げ、コミュニケーションを深める。
- ・見守りサポーター推進・・・配食サービス(1回/月)により、コミュニケーションを深める。
- ・「ふれあいの町江木」の継続・・・1回/月 定例会を開催し、地域の困り事を話し合う場とする。

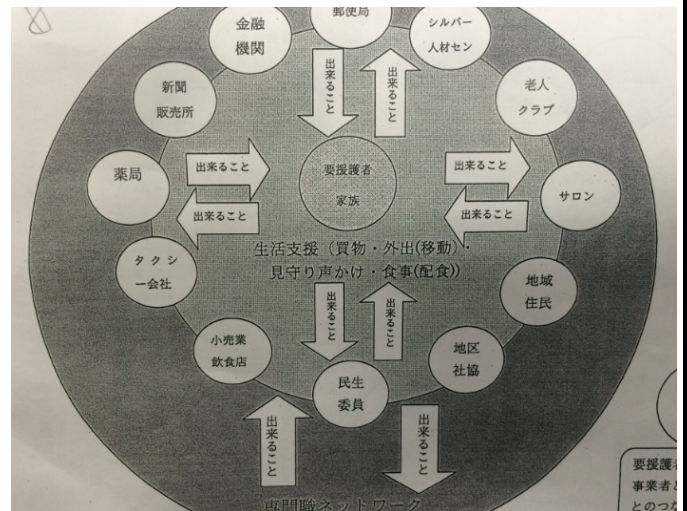
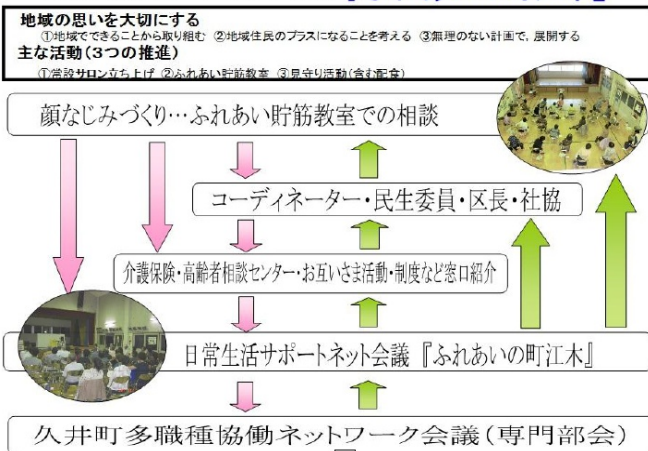
### 4)今後の課題

- ・5年後10年後よりも今日明日の困りごとが多い為、雑談ができる環境づくりが必要。
- ・住民同士の気持ちが深まるには時間がかかる。出会いを大切にする取り組みが必要。

#### 取り組みイメージ図

図表出展先: 三原市HP、視察時提供資料

#### 日常生活サポートネット会議『ふれあいの町江木』



**所感:** 移手段のない高齢者は買い物に困っているだろうと思い、その対応について質問すると「地元商店の電話配達や移動販売、隣近所の助け合いで対応できている。行政の支援は特にない。」との事だった。とかく行政支援を求めがちだが、江木地区には地域で支え合う本来の姿が残っている。しかしながら江木地区も高齢化が進み、コーディネーターの後継者不足が課題となっている。刈谷は地域包括ケアシステムをどう構築していくのか。自助共助公助をどう線引きしていくのか。全庁で真剣に考える必要があると感じた。